

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第2回 再生普及行動計画ワーキンググループ

日時：平成16年9月4日（土） 15：00
～17：00

場所：釧路地方合同庁舎 4階 第三会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 「10の提言」に関する取り組み状況と課題
 - 2) 目標設定と評価手法について
 - 3) 行動計画作成の方針とスケジュール
3. その他
4. 閉会

----- 配布資料一覧 -----

- ・ 当議事次第
- ・ 第2回出席者名簿 （当日配布）
- ・ 座席表 （当日配布）

- ・ 資料1：「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」の具体的施策の進捗状況
(改定版・未定稿)
- ・ 資料2：進捗状況整理票
- ・ 資料3：目標設定と評価手法について
- ・ 資料4：行動計画ワーキング ワークフロー（案）
- ・ 資料5：検討スケジュール（案）

- ・ 行動計画 WG 活動のフロー（案）
- ・ 活動紹介ホームページ作成について

**釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ名簿**

<個人>

江崎 秀雄 (森の学習塾代表)

金子 正美 (酪農学園大学環境システム学部助教授)

新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)

<団体>

NPO 法人釧路湿原やちの会

釧路湿原ボランティアレンジャーの会

釧路武佐の森の会

ボランティアネットワーク・チャレンジ隊

<関係行政機関>

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

北海道釧路支庁

北海道教育庁釧路教育局

<関係市町村>

釧路市 釧路町 標茶町 鶴居村 弟子屈町

<事務局>

環境省東北海道地区自然保護事務所

財団法人北海道環境財団

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生行動計画ワーキンググループ
第2回出席者名簿

<委 員> (出席者 50 音順)

氏 名	所 属
江崎 秀雄	森の学習塾
大西 英一	釧路武佐の森の会
金子 正美	酪農学園大学環境システム学部助教授
近藤 一燈美	釧路湿原ボランティアレンジャーの会
佐藤 吉人	NPO 法人 釧路湿原やちの会
新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主幹

<オブザーバー>

氏 名	所 属
高橋 忠一	再生普及小委員会委員長

<関係市町村>

氏 名	所 属
中野 正人	釧路町 産業経済課
司口 幸治	釧路市 環境部環境政策課

<釧路湿原自然再生協議会 事務局>

機 関 名	出席者氏名
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課課長	平井 康幸
林野庁北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 所長	池田 敏邦
北海道釧路支庁地域政策部環境生活課自然環境係係長 主任	後藤 達彦 藤村 朗子

<ワーキンググループ事務局>

機 関 名	出席者氏名
環境省東北海道地区自然保護事務所所長 自然保護官	星野 一昭 熊代 哲
財団法人北海道環境財団企画事業課課長 主任	久保田 学 内山 到 内田 しのぶ

「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」の具体的施策の進捗状況
(改訂版・未定稿)について

- ・調査方法は、事務局が関係団体から活動内容や今後の活動の方向性等を聴き取り○等をつけました。また、△は事務局の判断で付けたものも多くあります。
- ・今回新しく加えた項目などは赤字にしています。
- ・前回のものも、「同一人物の判断基準」ということで見直した部分があります。

※追加と修正は赤で加えてますが、消した部分もあります

- ・各マークの意味は以下のとおりです。

◎：10の提言項目と活動目的が合致しているところ

○：とりくんでいるもの、関係があるもの

△：今後、展開の可能性があるもの

- ・表のヨコ軸である「実施項目」は、これが全てではありません。
- ・○等は実施の有無を示したものであり、内容を評価したものではありません。
- ・集計表の3色の色分けは、実施数を集計し、相対的に示したものです。

※ 資料2は、資料1の集計表を基に事務局で作成したのですが、具体的な検討は第3回以降のWGにて行いたいと考えております。なお、ご意見等ありましたら事務局までお申出ください。

提言 1 人々の湿原への関心を喚起する

項目	現状	具体的な活動	課題
人々と湿原の接点を増やす	・提言1～10の中で、この項目がもっとも多く取り組まれている ・継続的に実施されていくのかどうかわからないものもある	・自然再生大会 ・こどもレンジャー ・釧路湿原ガイドマップ ・周辺施設 など	・取組みの効果を評価する仕組みを確立する(これはすべての提言に通じる)
対象に応じた多様なアプローチを用意する	・関係団体による諸活動では、様々なニーズに対応しており、行政とはまた違った視点でのイベントが多い ・関係団体が実施しようとしても金銭的な面でできない場合もある	・音探検 ・やちの会 ・森の学習塾 など	・行政の協力(バックアップ?)体制をつくる
自然や環境以外の関心に訴える	・関係団体による諸活動で、多く見られる ・アイデア次第では、もっと実施できる可能性がある ・関係団体が実施しようとしても金銭的な面でできない場合もある	・鶴居どさんこ牧場 ・音探検 ・ホームページ ・じゅう箱のスマ など	・行政の協力(バックアップ?)体制をつくる
湿原の恵みを知る	・「恵み」をキーワードにして、普及啓発活動が多く実施されている ・「恵み」の内容(捉え方・定義)があいまいで、説得力に欠ける	・修学旅行 ・森の学習塾 ・環境教育フェア など	

提言 2 湿原と人との関わりの歴史と今を知る

項目	現状	具体的な活動	課題
開発と保全の歴史を伝える	・ネイチャーガイドなどの解説時に話されることが多い ・常設展示のような、常にそれを学べる場は少ない ・ガイドブックに掲載されることが多い ・ガイド等で知る機会が多いが、単独で観光等に来た場合知る機会が少ない ・外部からの人ばかりではなく、地元の人にも知ってもらえる機会はあるか？	・釧路市湿原展望台 ・1/4 ウォーク ・鶴居・伊藤サンクチュアリ ・市立博物館 ・各種パンフレット など	
集水域の人間活動と湿原のつながりを伝える	・ネイチャーガイドなどの解説時に話されることが多い。 ・現地での活動の中で気づいたり学んだりする機会が多い ・常設展示のような、常にそれを学べる場は少ない。 ・いろんな立場で湿原に接する人がいる中で、偏った解説になってはいないか	・やちの会 ・釧路湿原ガイドマップ ・釧路湿原川レンジャー など	
人と野生生物との関係を考える	・ネイチャーガイドなどの解説時に話されることが多い。 ・現地での活動の中で気づいたり学んだりする機会が多い ・これを意図している、既存の施設（ビジターセンターなど）がある ・ビジターセンターなどの既存施設でも解説等されているが、その内容に差があり、またそれが共有化されていない	・野生生物保護センター ・温根内ビジターセンター ・鶴居・伊藤サンクチュアリ ・釧路湿原ボランティアレンジャーの会 など	
湿原と人とのよりよい関わりを創り出していく	・現地での活動の中で気づいたり学んだりする機会が多い ・多くの団体が、新しい発想でイベントや取組みを進めている ・良い企画がある場合、それを実施できるような協力体制や継続のためのバックアップが必要か	・音探検(チャレンジ隊) ・つるいキッズプロジェクト ・修学旅行 ・カヌー利用ガイドライン策定 WG など	・企画の募集、それを実施できるような協力体制や継続のための支援、協力

提言3 自然再生の仕組みや動きを広める

項目	現状	具体的な活動	課題
保全や再生のための制度を伝える	・湿原ガイドのなかで説明されることが多い ・HP やニュースレターなど、協議会からの発信が主である ・解説する人にリアルタイムの情報が届かない	・協議会ホームページ ・ニュースレター ・釧路湿原ガイドマップ ・野生生物保護センター など	・高度で難解な制度を一般向けに平易化する
民間団体の取り組みを伝える	・イベントや会議の際に取組みを発表することが多い ・各団体の情報を、地域で共有化できていない ・継続的な発信手段が少ない	・鶴居・伊藤サンクチュアリ ・世界こどもサミット ・じゅう箱のスミ など	・公的機関との連携
拠点施設での広報を改善する	・解説者自ら再生事業の話をするところもあれば、質問があった場合解説するというところもある ・対応は施設により、解説者によりまちまちである ・解説者も、どんな点をアピールすればよいかわからない ・解説する人にリアルタイムの情報が届かない	・野生生物保護センター ・鶴居・伊藤サンクチュアリ など	
メディアに発信する	・イベントや大会のときにメディア発信する 경우가ほとんど ・新しい取組み(カヌーガイド、ガイドブック発行など)の際には新聞等で広報される ・「じゅう箱のスミ」で連載 ・ホームページでリアルタイムに発信されていない ・目新しいことがないと、外部メディアにはとりあげてもらえない	・じゅう箱のスミ ・ホームページ など	
情報発信から人的交流へ	・イベントが人的交流の機会となる場合が多い ・ホームページの掲示板書込みも双方向コミュニケーションとなりうる	・環境教育フェア ・1/4 ウォーク など	・協議会の活性化 ・ホームページの掲示板の活性化

※ 青字：取材の中での話 黒字：事務局の評価

提言 4 自然再生について情報公開と合意形成を進める

項目	現状	具体的な活動	課題
情報公開に基づく各主体間の合意形成	・提言1～10の中で、この提言の取組みが最も少ない ・ホームページやニュースレターは協議会の会議報告が多く、会議の外（地域やその取組みなど）につながる情報が少ない ・再生に関わる主体の組織構成や取り組み内容が複雑・高度で、人々の興味、関心に訴えかけるものになっていない	・自然再生協議会 ・各小委員会 など	・自然再生事業の全体構想が完成してから、時間をかけて進めるべきか ・調査結果や手法、組織構成や理念など一般向けに平易化を図る
地域間の合意形成		・ホームページ ・ニュースレター など	
情報基盤づくり		・環境教育学習資料 ・ホームページ など	
誰でも参加できるオープンな仕組みと、日常的な意思疎通		・釧路湿原ボランティアレンジャーの会 など	

提言 5 自然再生に地域・市民の参加を促す

項目	現状	具体的な活動	課題
参加のデザインをつくる	・自然再生に関する提言（提言3、4、5、6）の中で、比較的多く取り組まれている ・「自然再生」に対する共通認識が醸成されていないのに、地域・市民の参加を促すこの提言が先行して行われているように感じられる	・くしろ環境スクール（日本生態系協会） など	・協議会の活性化 ・ホームページの掲示板の活性化
地域・市民の当事者意識を引き出す		・ミニシンポジウム（標茶町・鶴居村） ・鶴居村かんきょう会議 など	
参加の機会を用意する		・1/4ウォーク ・21 世紀の道ウォークラリー など	
参加しやすくする		・ホームページ など	
参加の魅力をつくる		・じゅう箱のスミ など	
専門家の参加の促進		・環境教育フェア ・1/4 ウォーク など	

提言 6 自然再生への幅広い支援・協力を求める

項目	現状	具体的な活動	課題
間接的な協力の輪を拡げる	・ガイドマップ販売やカヌーガイドライン配布で、さまざまな機関に協力を要請できた	・釧路湿原ガイドマップ ・カヌーガイドライン作成など	
民間活動への支援を募る	・ガイドマップ販売により、今後寄付金が集まるようになった ・ニュースレターやホームページなどで間口を広くしている	・釧路湿原ガイドマップ ・ホームページ など	
買い物や消費を通して協力する仕組みを作る		・釧路湿原ガイドマップ ・国立公園ガイドブックなど	

※ 青字：取材の中での話 黒字：事務局の評価

提言7 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

項目	現状	具体的な活動	課題
ビクターセンタ ー等の機能を強 化する	・情報発信の場として活用されている ・修学旅行や JICA 研修などでの利用もある	・タッチパネル ・修学旅行 など	・施設の人員体制の再考 ・解説者のホスピタリティ
自然再生事業の 今を学ぶ	・イベントや会議で「自然再生事業」を学ぶことが多い ・単発の場合が多い(継続的なものが少ない) ・各施設での解説のときに、話されることもある ・常設展示のような、常にそれを学べる場は少ない。	・自然再生大会 ・ニュースレター など	
対象に応じた環 境教育の展開と 支援	・周辺施設で、対象に応じた学習会などが開催されている場合がある ・このような学びの機会が継続されるかどうかわからないものもある	・こどもレンジャー ・環境教育フェア ・環境教育学習資料 など	
小中学校での教 育と連動させる	・小中学校の授業の一環で、各施設を訪問する場合がある ・学校と一緒に、学習内容を検討している団体もある ・年間行事予定が既に決まっている場合、環境学習を今から盛り込んで もらうことは難しい	・森の学習塾 ・鶴居・伊藤サンクチュアリ など	・現場サイドでも、方法論や 効果の評価方法が確立さ れておらず、内容にバラつ きがある
高等教育と連動 させる	・高校は部活動等でとりくまれる場合が多い ・大学生も、イベントの際に先生に連れられてくる場合がある	・鶴居・伊藤サンクチュアリ など	・
釧路湿原を環境 教育と人づくり のメッカに	・各種イベントにて釧路湿原の PR がされている ・参加プログラム、環境教育プログラム等がまだ少ない	・21 世紀の道ウォークラリー など	

提言 8 国立公園の新しい利用形態を創り出す

項目	現状	具体的な活動	課題
湿原を楽しむ文化を創る	・カヌーやトレッキング、馬での散策など、さまざまな利用形態がある	・音探検(チャレンジ隊) ・どさんこ牧場 ・観光業者による湿原ガイド など	
湿原の利用にルールと負担を求める	・国立公園内でのマナーは、各施設やガイド等で機会あるごとに告げられている ・前提とすての国立公園の理念や趣旨そのものが十分理解されていない	・カヌーガイドラインの作成 ・国立公園ガイドブック など	
エコツーリズムを地域産業として浸透させる	・修学旅行の誘致を、釧路市が冊子を発行して行っている ・国立公園内では体験できることが限られる	・修学旅行 など	・エコツーリズムとして、何を活用しどんな視点で行うのか
ワークキャンプを定着させる	・鶴居・伊藤サンクチュアリでは毎年受け入れている	・鶴居・伊藤サンクチュアリ など	・受入れ先、受入れ体制の問題 ・参加希望者と受入れ先との調整は？

提言 9 湿原を訪れる人へのサービスを改善する

項目	現状	具体的な活動	課題
一元的な広報活動を	・情報発信、会議・イベントなどで多く取り組まれている ・周辺施設では、アイデア次第で今後さらに活動を展開できる可能性がある ・広報主体によって内容がバラバラで、統一されていない	・協議会ホームページ ・釧路湿原ガイドマップなど	
国立公園利用施設の存在アピールを	・周辺施設で多く取り組まれている	・野生生物保護センター ・釧路市湿原展望台 ・国立公園ガイドブックなど	・利用実態やニーズに合わせたサービス提供の体制を構築する必要がある
観光拠点で湿原情報提供を	・周辺施設で多く取り組まれている ・湿原情報を尋ねられたら解説する、という場合もある ・解説をしてくれる施設と、そうでない施設と、頼めば解説してくれる施設と、対応はまちまちである	・野生生物保護センター ・細岡ビジターズラウンジ ・釧路市湿原展望台など	
適正な対価でのサービス提供を	・有料でサービスを提供する施設と、無料でサービスを提供する施設とがある ・ガイドにお金を払うという感覚がまだ定着していない？	・どさんこ牧場 ・やちの会 など	
双方向のコミュニケーションを	・人が解説する施設ならば、コミュニケーションできる場合が多い ・イベントが人的交流の機会となる場合が多い	・観光業者による湿原ガイド ・温根内ビジターセンターなど	・ホームページの掲示板の活性化(書込みも双方向コミュニケーションとなりうる)

提言 10 人・施設・地域のネットワークをつくる

項目	現状	具体的な活動	課題
「場」を担う人づくり	・いくつかの人材育成プログラムは実施されているが、育成された人の活動の場が限られている	・くしろ環境スクール(日本生態系協会) ・環境教育学習資料 など	・育成された人材の活動拠点の創出
既存施設も活用した「場」づくり	・湿原周辺の施設にて、各種イベントが開催され、利用されている ・施設間の連携が少ない ・施設間ネットワークができているところ(道東圏)もある	・修学旅行 ・コッタロ湿原展望台 ・温根内ビジターセンター など	・施設間のネットワークの構築
近隣のプロジェクトとの連携	・自治体の枠を超えて、多様に活用されている施設もある	・細岡ビジターズラウンジ ・鶴居・伊藤サンクチュアリ など	・距離的にも近く、内容的にも似ている施設があるので互いに協力していきたい
国際的な視野での連携	・JICA 研修での取り組みや施設活用が主	・JICA 研修 など	
自然再生事業を協働の実験場に		・自然再生協議会 ・パンフレット作成 など	

行動計画案の目標設定と評価手法について

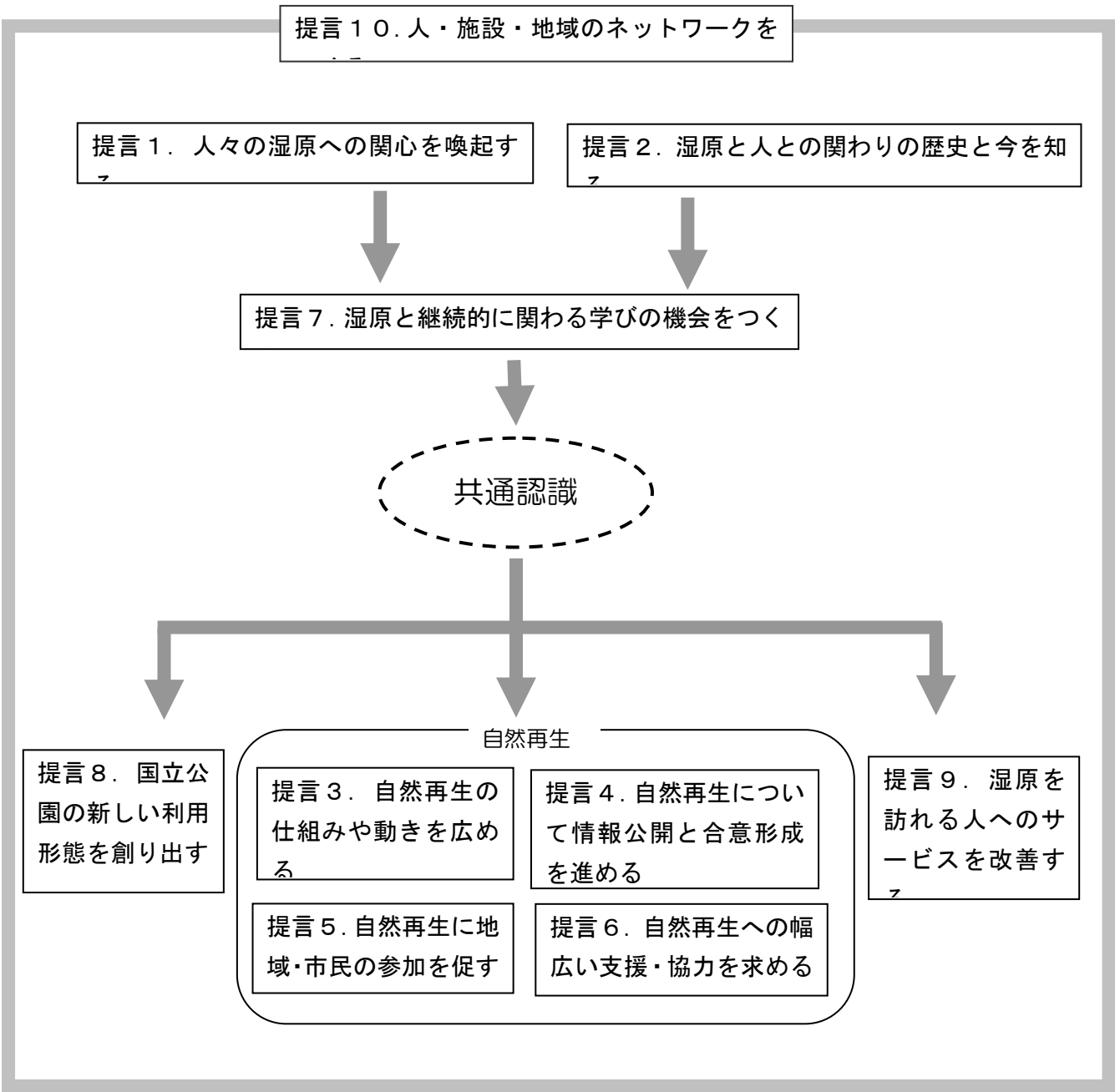
- ・各提言における目標設定について

- ・評価手法について

例)

1. 人々の湿原への関心を喚起する	関連イベント開催数 湿原周辺施設の来訪者数
2. 湿原と人とのかかわりの歴史と今を知る	関連イベント開催数 各種アンケート
3. 自然再生の仕組みや動きを広める	各種アンケート 自然再生協議会の一般傍聴者数 関係パンフレット等の配布数 新聞等の報道件数
4. 自然再生について情報公開と合意形成を進める	ホームページへの来訪者数 各種アンケート
5. 自然再生に地域・市民の参加を促す	関連イベント開催数と参加者数
6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める	ガイドマップの販売数 共催イベント開催数
7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる	ビジターセンター等のイベント開催数 人材バンク「プログラムリスト」の活用数 学校での取組み数
8. 国立公園の新しい利用形態を創り出す	ワークキャンプの開催数と参加者数 各種イベントの開催数
9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する	観光客対象アンケート
10. 人・施設・地域のネットワークをつくる	

行動計画ワーキング ワークフロー(案)



検討スケジュール（案）

平成 16 年 9 月 4 日 第 2 回WG 開催

- 10月中旬 第3回WG 先行している取組みについての検討
 （提言 1：人々の湿原への関心を喚起する）
 （提言 2：湿原と人とのかかわりの歴史と今を知る）
 （提言 7：湿原と継続的に関わる学びの機会を作る）
- 11月上旬 第4回WG 今現在始められる取組みについての検討
 （提言 8：国立公園の新しい利用形態を創り出す）
 （提言 9：湿原を訪れる人へのサービスを改善する）
- 11月下旬 第5回WG 今後取り組むべき取組みについての検討
 （提言 3：自然再生の仕組みや動きを広める）
 （提言 4：自然再生について情報公開と合意形成を進める）
 （提言 5：自然再生に地域・市民の参加を促す）
 （提言 6：自然再生への幅広い支援・協力を求める）

平成 17 年 1 月中旬 第 6 回WG ネットワークについての検討と
 行動計画素案（骨子）についての検討
 （提言 10：人・施設・地域のネットワークを作る）

※ 再生普及小委員会には適宜報告をいたします

3 月中旬 事務局にて行動計画素案のとりまとめ

平成 17 年春頃 第 7 回以降 WG にて行動計画案の検討ととりまとめ

↓

再生普及小委員会で検討

↓

必要に応じてパブリックコメントを実施

WG にて行動計画案を修正

夏頃 再生普及小委員会で検討、承認

↓

自然再生協議会へ報告

※ 以降、毎年成果を評価し、見直しを行う